

成果の説明書

(氏名)田戸岡 好香	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>○教育</p> <p>「初年次ゼミ」, 「情報基礎 I」, 「社会調査 (量的調査)」, 「社会心理学」, 「グループ研究」といった授業を担当した。また, 有志の 2 年生によるサブゼミも実施した。</p> <p>○研究活動</p> <p>2018 年度は科学研究費補助金 (若手 B) を受けて, 『社会的弱者へのバッシングはなぜ生じるのか: ステレオタイプ内容モデルからの検討』という研究課題の下, 研究を行った。</p> <p>また, 共同研究では, 衣服が人の心理や行動に及ぼす影響について検討を行った。具体的な成果は以下のとおりである。</p> <p>【学術論文】</p> <p>田戸岡好香(2018). ステレオタイプ抑制における効果的な抑制方略の検討 心理学評論, 61, 204-225.</p> <p>Ishii, K., Numazaki, M., & Tado'oka, Y.(2019). The effect of pink/blue clothing on implicit and explicit gender-related self-cognition and attitudes among men. Japanese Psychological Research, 61, 123-132.</p> <p>【学会発表】</p> <p>(査読あり)</p> <p>Tado'oka, Y., Ishii, K., & Hashimoto, T. (2019) Why welfare recipients take bashing? Focusing on Stereotype Content Model. Poster presented at the 20th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology, Portland, Oregon, 2019. (K195, 2019.02.09, p124)</p> <p>Ishii, K., & Tado'oka, Y. (2019) The role of self-image aspects on selfies angles of women. Poster presented at the 20th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology, Portland, Oregon, 2019. (K147, 2019.02.09, p122)</p> <p>(査読なし)</p> <p>田戸岡好香・大井美波・石井国雄 (2018). BIAS map に基づく「障がい者」表記の影響の検討 日本社会心理学会第 59 回大会発表論文集 121.</p> <p>石井国雄・田戸岡好香 (2018). ピンクの衣服が自己認知と摂食行動に及ぼす影響 日本心理学会第 82 回大会発表論文集, 2AM-022.</p> <p>石井国雄・田戸岡好香 (2018). 赤の服装が女性に対する性的魅力と意図の推測に及ぼす影響 日本社会心理学会第 59 回大会発表論文集, P21-24.</p> <p>上記に加えて, 2018 年度に心理学実験を 2 件行った。その成果を学術論文にすべく, 執筆中である。</p> <p>また, 行動政策に関する翻訳書籍の一章を担当し, 2019 年度に発刊予定である。</p> <p>○学会・社会における活動</p> <p>①ラジオゼミナールで講師を務めた。</p> <p>②長野県長野市の一支所一事業計画に基づき, 『古里未来楽校』において, 楽校長を</p>	

務め、地域住民とともに古里地区のかるたを作成した。

③『心理学研究』誌の査読を行った。

2 その他の事項

学内における学生指導委員として、本学ボランティア活動支援室の周知活動、イベント開催などを行った。

3 次年度以降の計画・抱負

教育面では、今年度から始まる「演習Ⅰ」と「社会調査演習」の授業において、着実な指導を行い、実験や調査の実施を行いたい。そのほかの授業についても、昨年の成果を活かしつつ、最新の研究知見を取り入れた講義を行う。

研究面では、科学研究費を受給している研究が最終年度となる。予定した実験を実施するとともに、これまでの知見の総括を行い、学术论文の形で投稿する予定である。また、引き続き共同研究も積極的に行いたい。

加えて、ボランティア活動支援室の周知活動を続ける。